



Vol. 06
2023

鈴木設計ニューズレター

Suzuki Architectural Design Office

「生まれ育った町で働く」

大川 直晃

私は鶴岡出身で新潟大学を卒業後、鈴木建築設計事務所に入社しました。自分の生まれ育った山形という場所で建築設計を通して地域の役に立ちたいという思いがありました。

当社は県内全域にわたり、幅広く仕事を手掛けており、昨年度は庄内地域で設計する機会も多くありました。

庄内中高一貫校（致道館）の整備事業では母校である鶴岡南高校の改修設計に関わりました。工事期間中の仮設校舎の計画や工事着工前の大量の申請業務などを担当し、2年間にわたる工事が事業スケジュール通りに着工できるように責任をもって取り組みました。母校のため、地域のために微力ながらも役立つことができました。新しく生まれ変わる母校の姿を見れることを楽しみにしています。

これからも地域のために良い建築が設計できるように取り組んでいきます。



大川直晃

みらいの福祉施設建築プロジェクト

福祉事業 × 建築デザイン コンペティション

この度私たちは（福）月山福祉会の皆さんと一緒に日本財団の「みらいの福祉施設建築プロジェクト 2022」という助成プログラムに応募しました。これは「地域福祉」をキーワードに事業実施団体と設計者が協働し、地域に届け込む福祉の事業内容と建築デザインを提案するコンペティションです。



地域に開かれた賑わいのあるソーシャルファーム

○月山福祉会との協働

（福）月山福祉会は鶴岡市で主に就労支援施設を運営しています。実施している活動はリサイクル事業や農畜産事業など幅広く、今回の提案は長年にわたり培ってきた農業技術を生かした農福連携事業に関するものです。

提案した事業内容の軸になっているのは土に触れるという考えです。“鶴岡の豊かな大地を舞台にした地域に開かれた公園のような場所がほしい。”という月山福祉会さんの想いが詰まったプロジェクトです。



最終審査のヒアリングで使用した1/50模型

○設計で大切にしたこと

今回の施設は法人の利用者やスタッフの他に地域の方も利用する想定でした。提案では屋内外に様々な場所をつくり、特徴の異なる利用者自らがその日の気分で自分の居場所を選択することができるように、法人の皆さんが考えた様々なアイデアを形にして敷地内に散りばめました。

さりげなく視線が通り活動の様子が見えることで、人と人のコミュニケーションを促します。外壁は特徴的なオレンジ色で、夏は田園風景の中に、冬は雪景色にあたたかく浮かび上がることで、地域に対して元気を与える建物としました。

○応募状況と審査結果

本コンペは今年で2回目の開催でした。今年度は全国から292事業の申請があり、私たちは最終審査の12事業に選ばれました。昨年12月には日本財団本社ビルにてヒアリングに臨み、建築家の先生方から鋭い意見をもらい、全国の壁を体感しました。

3月初旬には3事業が採択されましたが、私たちは惜しくも不採択という結果でした。

残念な結果でしたが、地域で生きる福祉建築を考え直す機会になり、これからも地域と未来と福祉の関係を強く考えていきます。

○目次

- ・所員 大川 直晃
- ・みらいの福祉施設建築プロジェクト

○人物紹介

おおかわ なおあき

大川 直晃 / 鶴岡市出身 / 一級建築士 / 建築積算士 / 鈴木建築設計事務所 所員

2019.03 ~ 新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻
建築学コース修士課程卒業

2019.04 ~ (株) 鈴木建築設計事務所で意匠設計・監理を担当

○(福)月山福祉会 基本情報

法人名 社会福祉法人 月山福祉会
所在地 山形県鶴岡市中野京田地内
経営施設 多機能型障がい者福祉事業 作業所月山
多機能型障がい者福祉事業 スローワーク新町
特定相談支援事業所 一柳
障がい児放課後等デイサービス事業 アトリエ
鶴岡市地域生活支援事業 日中一時支援事業



○お問い合わせ

株式会社 鈴木建築設計事務所
Suzuki Architectural Design Office

代表取締役社長 藤原 薫



Instagram



ホームページ

編集後記

今号も読んでいただきありがとうございます。
編集を担当している橋本です。

今回から編集後記がスタートしました。
日常のちょっとした出来事や個人的なことを
記載していきたいと思えます。

ようやく春になり、来月から新入社員も迎
えるのでわくわくしています。
皆様、来年度もどうぞよろしくお願ひします！

(広告編集担当 橋本)